



市議会令和4年3月定例会が、3月1日から25日までの25日間の日程で開催されました。開会日に、当面する市政の重要課題について、表原市長が所信を表明しました。抜粋して要旨部分のみを掲載します。

速やかなワクチン接種完了に取り組み

新型コロナウイルスワクチンの3回目接種については、令和3年12月から医療従事者等を対象に順次開始し、国から示された接種間隔の前倒しを反映し、2回目の接種時期に際して65歳以上の高齢者の方から順次接種券を発送しています。

2月には、市内32の医療機関での個別接種に加え、スポーツ総合センターにおいて集団接種会場を開設し、接種の加速化を図った結果、2月25日時点で、人口の20・7パーセントにあたる1万4895人の方が3回目の接種を完了しており、国全体の接種率17・3パーセントを3・4ポイント上回っています。

なお、5歳から11歳の方への小児用新型コロナワクチン接種は、これまで、県と24市町村で協議を重ね、広域での接種を可能とする体制が整い、阿南市内の6医療機関を含む、県内63医療機関にご協力いただき、小児への接種体制が整備されました。

本市では、2月22日に、市内の5歳から11

歳の方約4000人に接種券を発送し、県が運営する小児用ワクチン接種専用コールセンターおよびインターネットによる予約を受け付けており、3月7日から接種を開始しました。

今後も、阿南市医師会をはじめとする関係機関のご協力をいただきまして、接種期間とされている9月30日までに、接種を希望される全ての市民の皆さまが、速やかにワクチン接種を完了できますよう引き続き取り組んでまいります。

脱炭素社会の実現に向けて

カーボンニュートラルへの取組として、本市は、令和3年8月30日にゼロカーボンシティを掲げ、次の世代に豊かな自然環境と多様な産業が調和するまちを残すべく、「2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにし、脱炭素社会の実現をめざす」ことを宣言しました。

令和4年度当初予算では、地球温暖化対策として、「阿南市環境保全率先行動計画」（区域施策編）の改定をはじめ、市道および公園施設に設置されている照明設備のLED化、

公用車の一部を電気自動車に切り替える事業費を計上しているほか、住宅用太陽光発電システム導入支援事業や市民向けの環境啓発事業についても継続して取り組めます。

また、徳島県版・脱炭素ロードマップで示された、再生可能エネルギー導入促進事業などへの参画も積極的に検討するなど、本市と県、民間企業等が一体となった脱炭素化への取組を着実に推進してまいります。

さらに、脱炭素という地球規模での喫緊の課題に対し、全庁を挙げて取り組むため、令和4年度の行政組織の見直しにおいて、司令塔機能を担う「ゼロカーボン推進室」を企画部企画政策課内に設置し、脱炭素社会の実現に向けた、産業・民生・教育など、各分野にまたがる施策を実践的かつ総合的に推進してまいります。

JR阿南駅周辺の新たな拠点づくり

市民会館解体後の跡地をはじめとする公共空間を活用し、阿南駅周辺の賑わいと交流を

生み出す新たな拠点づくりのための基本構想「阿南駅周辺まちづくりビジョン（案）」については、検討会議での議論、市民の皆さま、議員各位から頂いたご意見およびサウンディング型市場調査の結果等を踏まえ、図書館機能等を阿南駅周辺の公共用地における核となる導入機能とした複数の概略案をたたき台として取りまとめまいります。

令和4年度は、概略案をより具現化していくため、導入機能等について精査を行い、事業化に向けた具体的な計画の元となる、まちづくり基本計画の策定に向けた取組を進めてまいります。

特に、核となる図書館機能は、阿南図書館休止以降、幅広い世代の市民の方々から、それぞれの視点で図書館の再整備を望む声を頂きました。また、検討会議でも、図書館機能を生かすことで、さまざまな人的交流につながる可能性が提案されています。

新図書館の構想策定に当たっては、令和4年秋までにフォーラム、シンポジウムを開催し、広くまちづくりの中での図書館の在り方を市民の皆さまと共に考えてまいります。そして、10月には（仮称）新図書館基本計画策定委員会を設置し、ワークショップやアンケートを実施し、市民参加の下、図書館への期待、希望、夢を持ち寄り、市民の皆さまの思いをできる限り反映した基本計画の策定をめざしてまいります。

人口減少社会における地域公共交通の在り方の検討

阿南市地域公共交通計画（案）では、前計画の評価や今年度実施した調査、協議会における議論を踏まえ、市周辺部の移動手段の確保と利便性の高い地域公共交通網の整備、地域公共交通への当事者意識の醸成と利用促進、地域公共交通旅客サービスの持続可能な確保体制の構築の3点を大きな課題としました。その課題の解決をめざす基本方針として、多様な担い手による地域公共交通ネットワークの維持、誰もが参画・協働し「乗って残す」地域公共交通、まちづくりと連携し快適に暮らせる持続可能な地域公共交通の3つの視点を位置付けました。

さらに、基本方針に基づき具体的に取り組む重点施策では、発想を転換させ、既存の地域公共交通インフラのみならず、市民をはじめとする多様な担い手を創出し、交通事業者、行政がより綿密な連携の下、持続可能な新しい地域公共交通の最適化と移動手段の確保をめざす15の施策を掲げています。

本計画（案）は、パブリックコメントにて、広く市民の皆さまからのご意見をお伺いすることとしており、議会でも議論も頂きながら、令和4年度の初頭には新たな阿南市地域公共交通計画を策定してまいりたいと考えています。人口減少が加速化する中で、地域公共交通

の持続可能性については、大変厳しい現実に直面しておりますが、行政、交通事業者、市民の皆さまの力を結集して地域公共交通の維持、利便性向上に最大限の努力を重ねてまいります。

かもだ岬温泉保養施設の今後の運営について

本施設は、本市の代表的な観光施設として、かもだ岬を訪れる観光客や入浴客等にご利用いただいておりますが、平成13年の開館以来、年間収支が黒字となることもなく、利用客も年々減少の一途をたどっており、これまでも幾度となく、経営改善等に取り組んでまいりましたが、レジオネラ属菌の発生やコロナ禍等の影響もあり、一層の客離れが進んでおり、累積赤字は今年度も含め約8億5000万円に達することが見込まれています。

本市としては、これまでの運営審議会での議論を総括した答申結果を重く受け止めつつ、今後広く議会でも議論を頂きながら、まずは、民間事業者の意向把握手法について検討を行った上で、本施設に対する民間の評価、関心度、投資意欲等についてのサウンディングに努め、移管、売却、譲渡等に係る前提条件など、広く民間事業者の参入可能性について見極めを行ってまいります。

全文は、市ホームページで公開しています。また、後日作成する市議会会議録は、市立図書館等で閲覧することができます。